

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

8

August
2018

山形県中小企業家同友会

月刊 同友

やまがた



報告者

報告者

中同協第50回定時総会 第5分科会

(左から) 山形大学 小白川キャンパスキャリアサポートセンター 松坂暢浩氏
(株)サニックス 代表取締役社長 佐藤 啓氏
田宮印刷(株) 常務取締役 阿部和人氏



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす
中小企業経営者の全国組織

2018年度スローガン

「人を生かす経営」の総合実践で
地域と日本経済の発展に貢献しよう

私たちが 次の時代を 拓く力になる

6月21～22日、第21回女性経営者全国交流会が、さいたま市で開かれ全国から過去最高の890名が参加しました。山形同友会の女性部会では、各支部の総会に足を運び参加呼びかけを行った結果、山形からも9名が参加し、八つの分科会と記念講演で学び合いました。参加者よりの感想を紹介いたします。



8分科会 シブサワスピリットでつなごう未来へ

（株）Hair with Water 代表取締役 赤塚 治美

参加分科会は「シブサワスピリットを学ぶ」で、幕末から明治維新を超え、昭和初期まで、激動の世を生きた渋沢栄一の「仁義公益の経営」を辿りました。埼玉県深谷市の豪農に生まれ論語や算盤を学び商才に長けた彼は、武士として教育を受けたが尊皇攘夷に染まり、しかし幕臣に。パリ万博を視察したことが彼の人生を変える。欧米の国力の違い、銀行・株式会社・資金の流れが経済を下支えする様を目の当たりにし、このまま日本が植民地化するのではと恐怖を持ち、大きな使命感で帰国。幕府が減じた後、大蔵省勤務や「株式会社」「銀行」など、日本の資本主義の根幹を作り上げるが「政治が好きではなく」「私の正義感に反する」と、民間で商人をする決意。

生涯で600といわれる企業や組織の立ち上げに関わり



現代に残る企業も多いが、その太い理念は同友会型企業づくりとも重なり、私利私欲によらない国民一人一人の豊かさの為の経営とは、まさに労使見解に重なると、故赤石中同協会長が分科会で取り上げた経緯が、同友会とのつながりとの事。博施濟衆、経世済民に徹した渋沢の意思を、つなぐのは今、私たち同友会だ、と、改めて「経営」の意味を問われる、大きな気づきを得ました。

グループ発表ではまさに女性の感性で、渋沢の唱えた「正しい経営」「正しい利益」を「美しい」に変えてみよう、と。経営者の生き方が清く正しく美しく、美しい利益とはお金だけでなく、感謝・喜び・笑顔が有益な企業活動を生む、と。民主の前に連帯、社員の自主を生かすには、ストレスの軽減、社会的弱者が働ける環境を創ることですべての人財が活躍できる、だから「女性に優しく」を考える会社は、社員に優しく、優しい社員が世に貢献できる。女性活躍とは「女性にはできない仕事」の固定概念を取り抜擢することで、男性が我慢していた部分が浮き彫りになる等、多くの気づきがありました。渋沢の経営、埼玉女性部には「人」が存在していました。人が人をつなぎ大きな夢もどんどん実現していく力は、どうせ無理、を超えてやってみると未来と実績に出会う。

今年初めて9名参加は、私の大きな実績となりました。ご賛同いただいた皆様ありがとうございました。来年の広島女全交、ご予約ください！

2分科会 同友会の入会で生まれた承継への意欲

(尚)長門屋 代表取締役 笹林陽子

私が参加した第2分科会の(株)中央寝装は、山口すみれ氏の祖父が兄弟で綿打ち業として創業。最盛期は布団店と綿打ちの工場で30人の社員がいたそうですが、今は専門店です。布団を購入する人は5%。社員は減り続け、父親は自分の代で廃業するつもりだったそうです。

家を離れ、結婚して第1子の出産直後に、夫が病気で働けなくなったことから、専業主婦だった山口さんは実家の寝具店で働きはじめます。当時は、親子共に事業承継の意識もなく、手伝い始めましたが、同友会への入会がきっかけで、先輩の寝具店の経営者との出会いや、ニシカワのチェーン店活動にオブザーバーとして参加するというチャンスをつかみ、自社の仕事のとらえ方を、「寝具販売」から「良質な眠りのサポーター」へと変化させていきました。経営指針をつくり、自己と会社の変革に取り組み続けますが、夫や両親の理解が得られずにいたと言います。しかし、4人目の子どもの妊娠を夫以外には隠して働き続けた末、自宅で緊急出産したことがきっかけとなり、「そんなにやりたいなら、思う存分やってみたらいい」と、両親が認めてくれたのだそうです。

現代には、リラックスできない、よく眠れないなど、睡眠に

ついでに悩みを抱えている人が大勢います。大人だけでなく、夜型の子どものや、肩こりの子どもも多い。山口さんは、「良質な眠りのサポーター」として、法人向けや、子育てママ向けに「寝ることの大切さを伝える普及活動」も精力的に行い、睡眠に関心を持ってもらうことで、地域の人を元気にすることに貢献しています。

グループ討論は「継ぎたい・継がせたいと思う会社には、何が必要ですか」がテーマでした。メンバーの背景は、親から継承、子どもへ継承、夫から継承と様々でしたが、経営者になるにはもちろん「経営力があること」と、「自分で覚悟をもって逃げないで進んでいくこと」が大切であるというのが共通認識でした。しかし資質や覚悟は初めからなくても、山口さんのように同友会のような場で、他者と関わり学び続けることで、だんだんと育っていくものでもあり、その進化し続ける中で、未来は開けていくという結論になりました。

思うようにならない現状の中でも、やりたいことを口にして、あきらめないで信念を持って仕事を続け、家族も周りも巻き込んで協力者にしていく山口さんの生きざまに、大変感銘を受けた分科会でした。

5分科会 誰もが輝く「大家族経営」をめざして

齊加商店 代表 齊加義三

参加した第5分科会は「人を生かす経営の実践 とともに学び、育ち合う社風づくり」で、「誰もが輝く『大家族経営』をめざして」をテーマに、群馬県の農業生産法人グリーンリーフ(株)の澤浦社長と、取締役の原氏の報告でした。

農業生産法人としては通年での安定生産、出荷、生産拡大はもとより、6次化にも積極的に取り組み、安定した収益の確保に繋がっている好事例を聞く事が出来、食農部会としてもよいヒントを頂く事が出来ました。

本題の大家族経営は業種を超えて経営者にとって共感できる理想でした。社員にはそれぞれのライフステージがあり、企業はそれに応じた働き方を支援する事で、一人ひとりが力を発揮してくれる、そんな環境が実現していました。現在、取締役の原さんも、パートとして働き始め(当時は入社というよりも近所の農作業の手伝いという感覚)お茶うけに作ってきたお漬物が先代の目に留まり、6次化のきっかけにもなったそうです。(ちなみに現在ではお漬物は同社の定番主力商品のひとつです)原さんも後に加工部門の工場長としての責任を全うしますが、その原点は「任せられたから」という所からでした。同社には現在19歳から82歳の幅広い年代の社員さんが活躍されています。一人ひとりの能力に合わせた働き方を尊重する、これが大家族経営の根幹であると感じました。

能力のみならず、一人ひとり価値観も異なります。ですから互いの違いを認め合う風土をつくと共に会社として明

確なビジョンを示し、進むべき方向は共有、統一すると言ったことが重要になるとも感じました。また、労働環境は社員さんを巻き込んで検討する事で主体性も生まれると共に皆の成長に繋がっていると思いました。

同社では近年、企業主導型の保育施設を開設し、社員さん(特に若い女性)がより安心して働ける環境を実現しています。写真で見た子供達の笑顔がとても印象的でした。農業法人だけに普段からおいしいものがたくさん出るようです。

働き方により正社員さんとパートさんの扱い、能力の差など、経営者が自然と分けていないでしょうか?一人ひとりの社員さんがそれぞれの立場で精一杯輝けるような環境をつくる事こそ経営者の仕事であると今回の報告で感じました。また、経営者は会社の外、地域の外に出て視野を広げる事で、自分や自社の既成概念を外す事が大切という言葉も大きく響きました。



同友会らしい企業づくりの輪を広げ、 日本と地域の未来を拓こう！



7月5～6日、中同協第50回定時総会が、2019年中同協設立50周年のキックオフ総会の位置づけで開催されました。隣県の仙台市が会場となった本総会には、山形から35名が参加、全国47同友会から1300名が集いました。

一日目は、全体会で議案提案が行われた後、16の分科会が開かれました。求人・社員教育がカテゴリーの第5分科会は山形同友会が設営にあたりました。報告者には、(株)サニックス・佐藤啓社長と山形大学・松坂暢浩准教授が立ち、「同友会

らしいインターンシップとは！？」のテーマで、山形大学との低学年インターンシップの取り組みによって学生・社員・企業がどう変わっていったかについて報告しました。

二日目は、議案が採択された後、田山謙堂・中同協顧問、大林弘道・神奈川大学名誉教授、国吉昌晴・中同協顧問による鼎談が行われ、時代背景を交えた同友会運動の歴史と理念を報告から同友会運動の先見性と普遍性を確認しました。

参加された方々の報告が寄せられましたので紹介します。

自らに労使見解を問いかけた分科会

(株)ペーカリー中村屋 代表取締役 志田清志

第4分科会『労使の自主的、自立的な働き方改革』に参加しました。

全ては経営理念に基づいた経営指針、計画と就業規則、服務規程を毎年見直す事が出来ているか？環境が変化しているのに、そのまま見直しせず、時代に合わなくなっているのでは？経営サイドから見る指標が売上や客数増だけに目が行き、現場で働く社員が働きやすい環境をつくっているのか？また、働きやすい環境とは何か？各同友会の中で、どのように働く環境づくりを運動として位置付けて展開していくか？そのためのガイドラインを作っているか？ガイドライン活用の仕方まで大阪同友会は行っているが、まだ完成していないので会社と同じように見直しをしながら実践していくとのこと。

10年ビジョンと就業規則がリンクしている事が大切。また後継者に繋いでいくための会社独自の計画、取り組み方を明確にする。継ぎなくなる会社を創っていく！会社の幸せが個々人の幸せにしなければならない。

今ある就業規則は労働基準の最低ラインではないのか？週40時間、1日7.5時間働ける方以外は雇わないというマインドのままでは、世間から淘汰される時代。やはり企業に魅力がなければ、雇用が生まれない。会社衰退、働く人が不幸になる連鎖ができてしまう。今はできなくても、社員が来なくなるような環境整備をしていく。人を活かす雇用、人を活かす解雇(再就職先支援)、社員が経営指針を実践するキーポイントは人に合わせた働き方をしてもらう事が大事。(みんなやっているから、やらせよう等はダメ)その人が生きる分野を探してあげる事が一番大事な事。

つまり生き生きと働ける部署の提供をする。会社にとって、社員にとって一番大切な事は何かを真剣に考える。人間尊重の経営＝社員の潜在能力を見つけてのばしてあげる事。社員を最も信頼できるパートナーとして処遇しているか？を再度、自分に労使見解や就業規則、服務規程、賃金規定の中身を問いたいと考えさせられる分科会でした。



第5分科会では、山形同友会と山形大学が取り組んできた低学年インターンシップについて、株式会社サニックス佐藤啓社長、山形大学松坂先生より報告を頂いた。

サニックス佐藤社長の報告では、自社を知ってもらう、学生に楽しんでもらい自身も楽しむことを目的に、自社の魅力を伝えることについて社員と一緒に考え行動したことが会社全体に変化をもたらした。B B Qや社長インタビュー、学生に働く社員の写真を撮らせるなど学生目線でのインターンシップはとても印象に残った。会社にビジョン、社員に夢がある、みんな仲良く明るくてアットホーム、チャレンジしている、そんな学生の感想から、社長と社員

が自社を見つめ考えて投入した努力を感じた。

松坂先生の報告では、大学と地域の企業が連携し、地域を担う大学生を育てることは共育ちとして自社の社員を育てること、自社の魅力や若手に地域問題や労働について考える機会が得られ、魅力ある会社に代われるチャンスがインターンシップにはあるとメリットを挙げられた。次に、「組織活性と人材育成のためにどのようにインターンシップに取り組むか」をテーマにグループ討論が行われた。

・目的を明確にしてインターンシッププログラムを活用し社員と考える機会を得る

・大学と同友会の関係づくりが重要で、中同協共同求人委員長から、受入れ先を同友会企業に限定した、この取組は全国に類がない好事例との意見を頂いた

座長の阿部社員共育委員長より、同友会らしいインターンシップとは、採用と直結せず同友会理念を柱にして、共に育ち合う環境を地域につくる「社会教育運動」とした、まとめが素晴らしく希望を感じた。今後インターンシップを双方の教育の場としてとらえ、若い社員を巻き込み一緒に考え組織活性化を図っていきたいと感じた。

採用と若者を受け入れる土壌づくり

田宮印刷(株) 常務取締役 阿部和人

第5分科会においては座長を務めました。テーマは「同友会らしいインターンシップとは 山形大学と連携した取組みで社員が輝く」でした。報告は山形大学松坂教授、株式会社サニックス佐藤社長の2名で行いました。

山形大学連携の低学年インターンシップでは学生の中小企業に対するイメージが大きく変化した事やサニックス様での「社員教育」「社員の自主性の発揮」についての報告は素晴らしく各方面より「インターンシップと社員教育を合わせて考えているところが素晴らしい」「インターンシップをやっているがこういうやり方があったとは参考になった」など大きな反響がありました。

また、この度作成したインターンシップの受け入れにおける基本プログラム(5シート)も興味を持たれた方が多く、「使えるシートだ」「自社用に少し変えて使ってみる」など良い反応でした。

しかしグループ討論では「大学との連携が難しい」「大学に申し入れたがうまく行かなかった」という声が多く、山形

の場合は山形大学からの声かけがきっかけでそれを活かした事が大きなポイントだと感じました。

採用と直結しないインターンシップを大学と連携して行う事は、自社の広報活動、社員教育、組織活性、など多くのメリットがあることを知りましたが、その延長線上に採用と若者を受け入れる土壌作りがあることに気づきました。それは地域に若者を残し、地域の持続性を高める事だと感じました。





分科会では弊社社長が第5分科会での報告者として、山形大学の松坂准教授とともに「同友会らしいインターンシップとは!？」と題して4年前から当社で取り組んできたインターンシップについて全国の経営者の皆様に聞いて頂くということで、社長や部下たちと一緒に取り組んできたインターンシップが、経営者の方々にどのように感じて頂くことができるのかなと興味がある反面、不安もありました。

報告ではインターンシップは学生と社員が共に育つ共育

の場であり、学生が思う中小企業に対するネガティブなイメージを払拭する効果が有ることや、社員は会社の魅力を発見する力とそれを伝える力が身につくという報告がありました。グループ討論では、「これまでインターンシップを受け入れてきたが採用ありきの取り組みだった、報告を聞いて今後は共育の風土づくりのためにインターンシップに取り組んでみたい」「大学との連携が素晴らしい」というお話をお聞きし、改めてインターンシップに取り組んできたことに誇りが持てました。

弊社の社員4名も特別に報告に参加させて頂き、「当時のことを思いだしてウルッと来ました」「今年はどんな学生と出会えるか今から楽しみ!」という嬉しい感想も共有することが出来ました。

今年もインターンシップに取り組みます、去年よりも少しでも進化した取り組みにしたいと決意しました。最後に、佐藤社長!有難うございました最高の分科会でした!

会勢が増える力は具体的実践の積み重ね

記念すべき第50回の全国総会が7月5日、6日の両日仙台で開催され、参加してまいりました。総会でしたので議案の提案から始まりました。

同友会は全国的に会勢を伸ばしてきており2019年の中同協50周年には5万名を達成する勢いを感じさせていただきました。その後、分科会会場に移動し、わが山形同友会の共同求人委員長の佐藤啓氏と山形大学の松坂教授が報告いただいた第5分科会に参加してまいりました。報告では、山形同友会と山形大学が連携して行っている、低学年インターンシップについてお話しいただきました。

なぜ就職間近でもない学生にインターンシップを実施するのかの意義についても両名からお話しいただきました。このインターンシップが始まってから数年経過するわけですが、データによると実施前は100%大手が公務員志望だった学生に変化が現れ、参加学生の約半数が中小企業に入社希望もしくは就職したとのことでした。そこでの気付きとしては、この取り組みは単に自社への就職を促す活動だけではなく、中小企業の存在価値を示す活動であり、若者に「社会とはなんぞや」を示す社会教育活動でもあると同時に、迎え入れる社員たちが自分たちの存在意義に気付き、人材育

成や企業価値創造にも寄与する取り組みであることを改めて痛感しました。佐藤氏の社員さんを巻き込んだ取り組みに触れ、つい目頭が熱くなった素晴らしい分科会でした。

本総会では情勢認識・歴史理念・平和問題・企業づくり・地域づくり・同友会づくりが議論され満場一致で採択されたわけですが、ふと考えたとき同友会がなぜこのような厳しい情勢下で会員数を伸ばしているのかという意味が、たんにきれいごとでなく、分科会報告でも理解できるように、具体的実践で積み重ねられているということではないかと感じた総会でした。山形同友会も、様々な活動が活性化してきております。お久しぶりの方もこれを機会に未来の明るい企業づくりと地域づくりのために参加されてみてはいかがでしょうか!?



8月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

平成最後の納涼例会で、 山形の歴史と文化を堪能しよう

2018.8.23(木) 18:15~21:00

場所: 紅の蔵 そば処紅山水
山形市十日町2-1-8 ☎023-679-5102

参加費: 5,000円

平成最後の山形支部納涼例会。今年で創建400年を迎え7月14日式年祭を開催したばかりの歌懸稲荷神社宮司より、商売繁盛祈願を頂いたのち蔵で山形そばと山形の酒で歴史と文化を堪能しましょう。

築100年を超える蔵の中でゆったりとイスに座りながら、歴史的な山形文化に出会えますよ。

他支部会員様、ゲスト様大歓迎お待ちしております。ぜひお問い合わせの上ご参加よろしくお願ひします。

寒河江支部

業績UPにつながる！ 社内会議の効果的な進め方

2018.8.31(金) 19:00~21:00

場所: 寒河江市技術交流プラザ 第2研修室
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

講師: 田宮印刷(株) 常務取締役営業部門統轄 阿部和人氏

会社を変えるには、自社の課題をつかむ必要があります。寒河江支部8月例会では、阿部和人氏を迎え、一方通行でない社内会議やミーティングで明日からの実践を引き出すメソッドについてお話をいただき、組織におけるコミュニケーションを問題提起していただきます。

この例会を、前向きで活発な社内会議やミーティングで経営課題を抽出し、変革するきっかけにしましょう！お問い合わせの上、ご参加ください。

さくらんぼ支部

2018.8.22(水) 18:30~21:00

場所: 東根市職業訓練センター 講義室
東根市中央1-3-1 ☎0237-43-2345

報告者: (株)菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏

詳細は別途ご案内致します。

置賜支部

社内会議の活性化で会社が変わる！

2018.8.29(水) 18:30~21:00

場所: 伝国の杜 大会議室
米沢市丸の内1丁目2-1 ☎0238-26-8001

報告者: 田宮印刷(株) 常務取締役営業部門統轄 阿部和人氏

会社を変えるには、自社の課題をつかむ必要があります。置賜支部8月例会では、山形同友会社員共育委員長の阿部和人氏を迎え、一方通行でない社内会議やミーティングで明日からの実践を引き出すメソッドについてお話をいただき、組織におけるコミュニケーションを問題提起していただきます。また、同友会の「グループ討論」を自社経営に活かすポイントもご説明いただけます。「グループ討論」は同友会の魅力でもありますが、会社の会議や研修など様々な場面に活かすことができます。あなたの会社では、メンバーが活発に意見を交わして意思決定し、行動していますか？

今回の例会を、前向きで活発な社内会議やミーティングで経営課題を抽出し、会社を変革するきっかけにしましょう！お問い合わせの上、ご参加ください。

庄内支部

どうゆう会社・どうゆう仕事 ~中小企業家同友会として参加企業それぞれの仕事を知る~

2018.8.30(木) 18:30~21:00

場所: グランドエル・サン
鶴岡市東原町17-7 ☎0235-24-4633

参加費: 5,000円

ビアガーデンで夏の暑さを吹き飛ばそう!!ビアガーデン形式でテーブルごと飲みながら参加者それぞれがステージに上がり、会社のPRを各2分を目安に報告してもらいます。(社員様も同じ・ゲスト様も同じ)それぞれ異なるPRも見所です。

中小企業家同友会は異業種の経営者が集まり、日々勉強し実践しています。この例会をきっかけにし、異業種交流の場として活用し、同友会の会員企業のみならず、お互いの会社・仕事をより良く知る事で、今後の経営に活力を見いだせればと思い企画しました。

会員の社員様や経営者の方々から数多く参加して頂き、意味のある異業種交流会にしていきたいと思ひます。皆様の参加をお待ちしております。

新庄最上支部

ビアパーティー

2018.8月末~9月上旬 18:30~21:00

場所: 厨ダイニング
新庄市若葉町7-6 ☎0233-23-7417

詳細は別途ご案内致します。

第3回理事会報告

◆日時:2018年7月11日(水)午後3時~午後5時 ◆会場:山形ビッグウイング ◆議長:齋藤専務理事
◆出席者:(敬称略)川合、西塔、菅原、齋藤、越前屋、阿部(和)、齊加、八代、板垣、志田、松岡、笹林、穂積、事務局 矢作、後藤、芳賀

■開会挨拶

西塔代表理事から「同友会事務局のあり方は、他団体の事務局と違うので、よく理解する必要がある。事務局は私たちが同友会運動を進める上でのパートナー。全国の経験を蓄積し、センターの役割を担っている。そういった面から事務局は重要で、事務局員の将来も考えていかなければならない。私たちの経験を蓄積し、知恵を提供してくれるパートナー集団であるということ踏まえてほしい」と挨拶しました。

■物件の説明

事務局移転にあたって応募があった物件の説明が行われました。

■報告事項

1)第21回女性経営者全国交流会 6/21~22 9名参加

第5分科会の農業法人グリーンリーフ(株)の社長と取締役の報告からダイバーシティ経営、人間の多様性や強みをいかに引き出すかが経営者に求められていると実感した。相手の都合で働いてもらえる会社づくりの必要性を感じ、同友会らしい経営をさらに勉強したいと思った。(志田理事)

2)中同協・第50回定時総会in仙台 7/5~6

35名参加、グループ長11名担当

来年中同協50周年を迎えるキックオフ総会としての位置づけで開催。山形からも目標40名は達成できなかったが35名が参加。初参加者の感動の声も聞いた。グループ長目標も達成し、総会の成功に大きく貢献できたのではないかと。今後も多くの方が全国行事に参加して、さらなる自分の成長と気づきにつなげていただきたく声掛けをしたい。(西塔代表理事)

山形同友会が設置した第5分科会は「同友会らしいインターンシップとは!?」のテーマで、(株)サニックス佐藤社長と山形大学松坂准教授が報告。評判は大変良く、中同協の共同求人委員長、社員教育委員長からも高評価をいただいた。ただ全国では大学との連携がうまくいかないという課題が大きい。また、インターンシップを最初から社員教育に取り入れようと進めている企業はほとんどおらず、その点が参考になったようである。(阿部(和)理事)

3)中同協・第1回幹事会 7/6 3名参加

総会後に開催され、新任の代表理事・副代表理事の紹介がメインだったが、広浜会長から役職者としての在り方について問題提起があり討論。役員研修会は重要で毎年しっかり開催し、全国・ブロックの研修会にも参加し、役員の意義を明確化する必要があるという討論になった。山形でも8月から行われるが、同友会の真の存在価値を導き出し、同友会運動と経営は車の両輪であると再認識するためにご参加いただくと同時に、役員候補にも参加を呼びかけ、層の厚い組織づくりにご協力いただきたい。(菅原代表理事)

4)各支部・委員会・部会よりの報告

月次報告書を基に報告がありました。

5)事務局諸規定に関する経過報告(西塔代表理事)

西塔代表理事が確認を行い、再度提案の上決定したいとの報告がありました。

6)2018年度6月月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 入会2名 退会1名 7/11現在402名

■討議事項

議題1:事務局移転について

冒頭、説明をいただいた物件について検討をした結果、満場一致でTISビルに移転することが決まりました。

議題2:役員研修会について

第1講師の加藤氏からいただいたレジュメを確認した後、西塔代表理事

が中小企業家しんぶん6.25号の「円卓」を引用し、体系的役員研修会の重要性を説明し、参加呼びかけを行いました。また、予算案が承認されました。

議題3:組織委員会より

菅原代表理事が、新会員オリエンテーションの重要性を確認し、今後も定期的に受講対象者の日程に合わせて開催していくこと、準会員制度の目的として、同友会型企業の増加、青年部なども活用しながらの事業承継の円滑化で持続可能な地域づくりにあることを再確認し、同一企業の二人目の入会にあたっての入会金・会費・資格基準について検討したこと、2018年度委員会合同例会は9月20日に開催し、ビジョンから労働環境を考えていく場としていくことが決まったことを報告しました。

議題4:西日本豪雨災害の支援について

西塔代表から、今回の西日本豪雨災害に対し、中同協が対策本部を設置し支援にあたっていることが報告され、山形同友会としては専用の口座を開設し、義援金のお願いを9月末まで行うことが決まりました。

議題5:事務局賞与の件

西塔代表理事が事務局夏季賞与の支給について提案し、承認されました。

■その他

1)行政・他団体との予定

東北経済局の「平成30年度東北地域中小企業・小規模事業者人材確保・定着等支援事業」を委託した(株)フィデア総研と共同求人・新春交流会・山大連携授業の事業に取り組んでいきます。

2)今後の予定

幹部社員研修会 第1講	7月12日(木)18:00~ 山形ビッグウイング
2018組織強化・会員増強全国交流会	8月24日(金)東京
第23期経営指針をつくる会発表会	8月25日(土)ホテルシンフォニー
中小企業・小規模事業者人手不足 対応ガイドライン活用セミナー	8月27日(月) 山形県産業創造支援センター
役員研修会 第1講	8月28日(火)14:00 山形テルサ
北海道東北ブロック支部長地区長交流会	9月6日(木)~7日(金)青森
中同協・女性部連絡会	9月6日(木)~7日(金)東京
第6回人を生かす経営全国交流会	9月13日(木)~14日(金)宮崎
中同協・経営労働委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・社員教育委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・共同求人委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・役員研修会	9月20日(木)~21日(徳島)
4委員会合同例会	9月20日(木)山形テルサ
中同協 第2回幹事会	10月2日(火)東京
新入社員フォローアップ研修	10月4日(木)寒河江市技術交流プラザ
幹部社員研修 第2講	10月9日(火)山形ビッグウイング
合同企業説明会	10月11日(木)山形テルサ
女性部10周年記念行事	10月17日(水)ホテルメトロポリタン山形
役員研修会 第2講	10月30日(火)14:00 山形テルサ

3)第4回理事会日程

●日時:8月8日(水)午後3時~午後5時

●会場:山形ビッグウイング

■閉会挨拶

菅原代表理事が「これから行事が目白押しで、同友会活動がますます注目されている中なので、ご協力をお願いしたい」と述べました。

新会員
紹介

◆ 小早川 徹氏

(株)あしたのチーム山形支社 支社長
人事評価・クラウド運用支援サービス
山形支部

◆ 新井 俊太郎氏

(株)ウィザード 代表取締役
建設業
さくらんぼ支部

同友やまがた8月号 (2018年8月1日発行/通巻305号)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp